

■米国：河川水温度上昇によりブラウズ・フェリー発電所が出力抑制

アラバマ州北部でテネシー川沿いに立地しているブラウズ・フェリー原子力発電所は2011年8月3日、河川水の温度上昇に伴って発電所の出力を抑制した。同発電所では環境保護の観点から、河川水が華氏90度（約32℃）に達した場合には発電所からの放熱を停止することとしている。同発電所付近では気温40℃程度の猛暑が続いており、この制限に近づく恐れがあるとして3基（いずれも110万kW級）の原子力発電所全てについて出力抑制を実施した。3号機の出力抑制量が最も大きく50%である。同発電所では昨夏も同様な出力抑制を経験しており、代替電源確保のために約5,000万ドルの費用が発生した。